

8 治療法が見つからない

◆ 治らないと言われた

がんが進行して、完治することが難しいと告げられることがあります。その時の衝撃は大きいでしょうが、「延命につながる治療法が残されていないか?」「臨床試験の可能性はないか?」など、がん相談で尋ねてみることもできます。どうしても良い方法がない場合には、緩和ケアや心のケアを受けながら、家族など周囲の人とともに1日1日を大事に過ごすことが大切です。

◆ 緩和ケア

痛みや精神的な苦痛をはじめ、患者が感じる不快感、不安を和らげ、その人らしく生きられるように支援することです。「がん相談」では、どのようにして緩和ケアを受けるかを教えてください。

近年、緩和ケアは、がんと診断された時から経過観察期、そして終末期まで、様々な場面で用いられるようになりました。その中でも、がんが再発したときや終末期のケアが重要です。

専門医のほか、看護師や心の専門家、薬剤師、理学療法士ら広範な分野の人たちが参加します。がん診療連携拠点病院では必ず緩和ケアを実施しています。また、症状を緩和し、最期を看取るための緩和ケア病棟を持つ病院もあります。最近では、在宅での訪問診療・看護を行う診療所や訪問看護ステーションも増えてきました。

◆ 死を意識する

周囲には医師、看護師ら医療に携わる様々な人たちがいますし、何より家族や友人が支えてくれています。毎日を自分らしく、大切に生きることです。がん相談を利用し、医療従事者や心の専門家にじっくり話を聞いてもらうのもよいでしょう。